

第11期 松戸市緑推進委員会
第10回 委員会

1. 日時 令和4年5月16日(月) 10:00~12:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 考・小谷幸司・高橋清・高橋盛男・
河合直志・小嶋 功・石川静枝・高橋 節・藤田 隆・佐藤秀樹・狭間明美

○松戸市

齋藤博紀 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
高橋花織 (公園緑地課主任)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末中央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・岩田 昇(主査)

○松戸みどりと花の基金

青柳洋一 理事長
田辺久人 事務局長

○傍聴 0名

事務局より本委員会の成立について、委員15人中13名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認について
- 2) 答申・提言および活動報告について
- 3) 緑と花のフェスティバル2022参加について
- 4) その他

3連絡事項

4閉会

議事 1) 議事要録の確認について

会長

前回委員会の議事要録の確認について意見等はないか。

委員

11ページの発言について「実際の参加者年齢は2才~10才程度」を「実際の参加者年齢は2才~10才
そして、大人の方」と修正してください。

会長

その他の意見等はないか。

無いようであれば、先ほどの修正をして議事要録とする。

議事3) 緑と花のフェスティバル2022参加について

会長

次に議事の2) についてですが、本日は答申・提言および活動報告についての審議が中心となりますので、順番を前後して先に活動報告書の内容にかかわる議事の3) 緑と花のフェスティバル2022参加についての報告の後に、議事の2) 答申・提言および活動報告について審議したいと思います。では、議事の3) 緑と花のフェスティバル参加について、事務局から説明をお願いします。

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料1として、「第11期委員会の答申・提言および活動報告(案)」

資料2として、「緑と花のフェスティバル」の参加報告

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

先ず、主催された松戸市みどりと花の基金から、ひとことご挨拶させていただきます。

松戸みどりと花の基金

「緑と花のフェスティバル2022」は4月29日(金)に3年ぶりに開催することができました。緑推進委員会の皆様におかれましてもご参加いただきありがとうございます。当日の午前中は天気を持ちましたが、昼からは雨となったため終了時刻を早めました。当日の公園全体の来園者数は5,100名、フェスティバルの参加者数は3,500名となりました。今年のフェスティバルはマスクの着用、手洗い、手指の消毒、密集回避等は元より、事前登録や当日の受付による参加者の連絡先の把握など、コロナ禍による感染症対策を行いました。このような状況での開催が初めてであったこと、過去2回の中止によりスタッフも入れ替えがあったこと等により、至らない点が多々あり、皆様にはご迷惑をおかけしたかと思いますが、参加された方々のご協力により無事に開催することができました。ありがとうございました。

事務局

では、資料2をご覧ください。緑推進委員会ブースにはみどりの行動会議より2名参加いただき、オープンフォレストや松戸市みどりの基本計画に関するパネルの展示、それに「みどりのスタンプラリー」を実施しました。

当日は、先ほどみどりと花の基金より報告のあったとおり朝より小雨であったため、パネル展示については11時頃に撤収となりました。

また、みどりのスタンプラリーについては10時30分より予定していましたが、来園者数も少ない状況でしたので、予定を繰り上げて10時から開始しました。雨脚が強くなる12時頃まで実施していましたが、フェスティバルは13時に中止となっております。

今回のスタンプラリーは参加者が他の催しを楽しめるように、里やま応援団様、エディブルウェイ×モリクルもりいくステーション様、松戸ネイチャーゲームの会様にもご協力いただき、ラリーポ

イントを各テントの近くに設置させていただきました。ラリーの参加者が各テントの催しである丸太渡り、竹の楽器叩き、ネイチャーゲーム、マキ割り体験、みどりのクイズ等を楽しんでもらえるように企画しました。

資料2の写真をご覧ください。上から2番目、左から2番目の写真がみどりのクイズの写真となります。ラリーポイントもすぐ近くに映っていますが、このようにポイントを設置し、ラリーの参加者がブースの催しに参加できるようにしています。右側の下の方は竹の楽器叩きやマキ割り体験の様子です。左側上から2番目にはお菓子の写真がありますが、こちらはラリーの完走者にお渡しした景品となります。この景品と一緒にまつど森ずかんも配布し、とても好評でした。

資料2の2枚目はラリーの台紙となります。地図の星印がスタートとラリーポイントとなっており、スタートからパークセンターまでの往復2キロ弱のコースを設定しました。長すぎるとの声も若干いただきましたが、概ね好評であったと思います。

また、裏面にはみどりに関する情報を記載しておりましたが、当日は天気が悪く台紙が雨に濡れてしまうということもあり、あまり目にはしてもらえなかった印象です。

実施方法やPR方法は今後の課題かと感じております。

以上が報告となります。

会長

参加された委員から何かありますか。

委員

当日は参加された方、市役所の方、お疲れさまでした。天気が悪くてお客さんが少なかったとは思いますが、例年よりもテントの位置が奥になってしまったので、参加者がこちらまで回って来ていないように感じた。

「雨の中、長いこと歩かされてしまった」との意見も耳にしたが、天気が良ければ問題なかったと思う。

混雑していると出来ないこととして、景品のお菓子を渡すときにオープンフォレストのチラシや「まつど森ずかん」を一緒に渡して内容の説明もした。

中には興味を持ってくれる方もいたので、その点は良かったと感じている。

委員

「まつど森ずかん」が大変好評であった。通常はこちらが配らないと無くなっていかないが、置いていただけなのに緑のネットワークブースでは午前中で80部程がなくなった。一目で気になるようで「これはなんですか」と興味を持って来て持って帰る方が多かったのでうれしかった。緑と花のフェスティバルは子供用の催しは少ないと思うが、そんな中で里やま応援団の竹楽器は雨の中でもずっと音がしていた。

委員

松戸市に30年近く住んでいるが、みどりと花の基金のメインイベントである緑と花のフェスティバルは初めて参加した。とてもいいイベントだと感じたので、今後は周囲の方にも宣伝していきたい

と考えている。

木場公園で先日行われた「みどりとふれあうフェスティバル」を見ても感じたが、家族連れや子供達にとって、みどりと身近に触れ合う、体験することが大切なのだと感じた。このようなイベントは今後のために皆さんも参加してみると参考になると思う。

会長

他になければ私からの感想も述べさせていただきます。

当日は研究室の関係でもブースを出していたので、緑推進委員会と行ったり来たりとなってしまいました。

今回は3年ぶりのということもあったと思うが、申し込み手続きの部分などでは課題が残っているのではないかと感じてる。フェスティバルは午前中で終わってしまったが次に繋がっていくことを期待してる。

コロナ禍に関しては、感染対策をかなり意識していたと思う。入場者は登録する必要があったり、スタンプラリーについても同じところに人が集まらないようにポイントを離して3つのコースを設定したりするのは、台紙をつくる手間も相当なものであると感じた。このような細かい部分にまで気配りをいただいたのはとても良かったと思う。今後コロナがどうなるか分からないが、対策をしながらのイベントは新しい経験であるし、もしかするとこれからは対策をしながら当たり前となるかもしれない。それを望むわけではないが、そのようなノウハウを得られたと前向きにとらえていけると良いと思う。

資料があるが入園者数についてはどうか。

公園緑地課

緑と花のフェスティバルへ参加いただき、皆さまお疲れ様でした。

こちらはゴールデンウィーク中の21世紀の森と広場への来園者数の表となります。

フェスティバルのあった4月29日は5,100人程度、5月3日は子育て団体のイベントで「こども祭り」、5月5日はワークショップを中心としたイベントとなる「松戸モリヒロフェスタ～こどもの王国～」を開催しました。天候の悪かった4月29日以降は5月3日14,400人、5月4日11,500人、5月5日16,200人となっております。天候に恵まれた日には多くの方に来園いただけた半面、イベントでは事前登録等をしつつも密集回避には一部課題が残るものとなっております。

裏面には年間来園者数の表があります。直近である令和3年度においても712,809人の来園者数となっております。これは新しい遊具を整備した効果もあると思いますが、平成31年度、令和2年度についても来園者数の減少は認められないことから、コロナ禍において公園でみどりにふれたり親しんだりしてリラックスしたりリフレッシュする方が多かったのではないかと思います。こうしたことからみどりのある公園に対するニーズは高まっていると考えています。

会長

休日のイベントが中止となっても、平日の来園者数が増加傾向にあるので全体の来園者数として減少しないと感じている。休日ではなく、何もない平日に一定数の利用者がいることは大切なことであると思う。

公園緑地課

平日の利用では、遊具で遊ぶのではなくベビーカーを押してランチを楽しみに来るような、手軽に楽しむ人達が増えていると感じる。コロナ禍も一つの要因であると思うが、手軽に楽しむようなニーズは高まっていると感じているし、これからもたくさん利用してもらいたいと考えている。

議事2) 答申・提言および活動報告について

会長

まずは事務局の説明をお願いします。

事務局

それでは、議事2)の第11期委員会の答申・提言および活動報告(案)について、説明をさせていただきますと思います。

まず、資料1につきまして、前回の委員会でお配りしたものに、前回未掲載であった、17ページの「みらいフェスタへの参加」、20ページの「緑と花のフェスティバルへの参加」、25ページの「第12期委員会へ引き継ぐ課題」、27ページ以降の活動報告書に添付予定の参考資料を追加記載し一部内容を修正したものです。

主な、修正箇所は、目次 2) 第11期委員会におけるサロン部会の活動についての(3)みどりの情報発信の検討と(4)みどりの活動のデータベース作成の検討についてですが、(3)と(4)との検討時期と検討内容が重複しておりますので、今回『(3)みどりの情報発信の検討(SNSの活用、みどりの活動のデータベース作成)』とひとつの項目にまとめさせて頂きました。これにより(5)としていた、みらいフェスタへの参加が(4)となっています。

7分程お時間を取りますので、資料1の答申書の鏡, 17ページ「みらいフェスタへの参加」20ページの「緑と花のフェスティバル」への参加、25ページ「第12期委員会への引継ぎ課題」、27ページ以降の参考資料について、ご確認をお願いします。

会長

では各自資料に目を通して、気になる点は発言してください。

事務局

よろしいでしょうか。本日は答申・提言および活動報告(案)に記載予定の答申書の鑑、みらいフェスタ2022への参加と緑と花のフェスティバルへの参加、第12期委員会へ引き継ぐ課題(案)、参考資料(案)について審議をお願いします。

会長

緑推進委員会では期末に諮問への答申を行う。その際、提案も含めて活動報告としてまとめている。その中では、次期緑推進委員会への引継ぎ事項を明確にしている。

緑推進委員会の活動には継続性や流れがあるので、そこを伝える必要があります。

答申に関しては、松戸市みどりの基本計画が委員会での議論を経て出来上がったことが主な内容

となります。

今日、特に議論したいところは次期緑推進委員会へ引継ぐ事項ですが、他にも報告したい活動や提案についても発言してください。

次回の緑推進委員会をもって第11期の委員会は終了となります。次回の緑推進委員会では市長に直接答申して活動報告をしたいと思います。そこで委員一人一人の感想等のコメントを市長にお話しできるかもしれません。実際の議論については今日の委員会が最後となり、次回の委員会では答申や活動報告について承認をして、実際の答申という流れになると思います。もし、持ち帰った資料から意見がある場合には事務局へ伝えてください。

委員

(個別施策)の後のコロンがあるものとないものがある。

会長

25ページ②下から3行目「時期委員会・・・」を「次期委員会・・・」と誤字の修正をしてください。

委員

25ページ3.1が「松戸市みどりの基本計画」の実現に向けてとなっているが、③にも松戸市みどりの基本計画についてとなっている。③は基本計画の概要版作成や周知方法についてとした方がいい。

会長

25ページ3.1は現実から実現としてください。3.2がないので3.1はいらない。

25ページの構成について、基本計画を普及・広報する③は最初の話しなので①、プラットフォームはサロン部会と近い方がいい。なので「①広報、②シティプロモーション、③プラットフォーム、④サロン部会」の順番とするといい。

一般的にPDCAサイクルといわれるものにあてると、改定前の基本計画の実行状況を評価・見直しして新たな計画へと改定されたので、その実行が基本的にはポイントではないかと考えている。

委員

サロン部会と行動会議について、事業の一部が形骸化している・・・との記述が残念な評価に思える。七夕プロジェクトや竹クラフト教室の話しを周囲の方にすると、まず最初にその活動を知らなかったとの言葉が出てくるので、周囲への広報が足りないと感じる。対象となりうる人に伝わっていなければ楽しんでもらうこともできないので、告知や広報のあり方のようなものを書き込んでもらいたい。これは他の部分にもいえることだと思っていて、オープンフォレストのポスターを自宅の門に貼って宣伝している方や町会長と相談して掲示板へ貼って広報したりする姿も今年は見受けられる。このように周囲へ広報していくことが大事であると思うので、そのような記述がほしい。自分達でも考えて行動しているが、今後はみんなでアイデアを出して広めていけるといいと思う。

具体的にはシティプロモーションと思われるが、戦略的な議論の一つと考えている。

会長

引き継ぐ課題とするか活動報告とするか、事務局としてはどうか。

みどりと花の課

参考資料の8にオープンフォレストの資料があるので、実績として記述を検討します。一部形骸化の部分について、七タプロジェクトや竹クラフト教室は元々みどりの行動会議にて行っていたものだが、現在は里やま応援団が実施している。以前はみどりの行動会議で行っていた「これから先の行動プランの検討」等も現在はサロン部会で行っているため、今後の行動会議のあり方を考えるというような意味で記載している。

会長

今は自発的な行動として広報がされている部分があるが、これからはその広報を支援して今までよりも広く情報の発信をしていけるといい。

里やま応援団は多くの活動をしているが、ターゲットになっている子育て団体にも完全な発信が出来ていないとの話しであるが、今後の実践や進め方に関してまだまだ議論が必要。里やま応援団に関しては子育て団体のイベントである「あそびの森」に参加したり、異分野と活動して幅が広がっている。このような活動分野の広がりや広報の仕方はヒントになるのではないかと。

みどりのサロン部会とみどりの行動会議について経緯を説明します。行動会議は平成16年に緑推進委員会で市民憲章をつくった時に、その憲章を実現する行動を行うための機関であり、メンバーは緑推進委員会のOB・OGを中心に様々な人が参加しています。毎年色々なことを考えていて、みどりの再発見ツアーは緑のネットワーク松戸が引き継いでいて、七タプロジェクトは里やま活動をしている森から竹を市内の放課後児童クラブへ配る活動をしていて里やま応援団がやっている。これは形骸化というよりは行動プランに対して実行が軌道に乗っている状態だと思うが、今のように新しいものを検討していくにはもっと色々な人と一緒に議論していく必要があると思う。

委員

みどりの市民憲章をつくった時にみどりの行動会議ができたのは、それまでにみどりに関する行動があったので、それを取り込んで市民憲章の実現に向かっていくために組織したものだった。

みどりの再発見ツアーも緑のネットワークまつどで観察学習ツアーをしていたものを行動会議が取り込んで一緒にして再発見ツアーとなったプロモーションのようなもの。これからシティプロモーションやプラットフォームを考える時にプロジェクトの骨格は考えられるが、実際にどう行動していくか、どうやって人や組織と繋がっていくか、というような仕組みを同時に実行する必要がある。端的に言うとも見える化する必要があるため、やっていけるかが課題だと思う。

委員

25ページ①「活動野・・・」を「活動の・・・」へ修正してください。また、全体的に最後が「議論が必要である」として文章を終わらせるのではなく、行動や実現の文章も入れて全体的に前進

させてほしい。

会長

第12期の活動がまだ決まっていないので書ききれない部分もあると思うし、緑推進委員会は実行する機関ではないが、これからはプランの後の実行するステージであることが分かるような記述がいい。

委員

文脈として最初に「実現」となっていて、各施策の実施・実現のための4つの議論と読めるので、このままでも大丈夫だと思うが、関係性が明確になるような文章の方がいい。

委員

人に伝えることを考えると、「まつど森ずかん」のように簡単なやわらかい文章にすると伝わりやすいと思う。

委員

市長への答申なので、これはこのままだと思うが、前回の委員会の中でも引き継ぎや基本計画を分かりやすく見やすい、概略版のように伝わりやすいものを別に考えたいとの議論があった。サロン部会の報告にもなるが、今の組織では試行は出来るが事業として継続して展開は出来ない。出来ることは勉強会をしてそれを公開したり、フォーラムの開催をしたりと具体的な話しになってしまう。そんな中、出てきたアイデアとして、松戸オリジナルのプログラムをつくれなかといいものがあり、独自の施策として展開を検討したいとの話しがあった。これは引き継ぐ課題の先の話したとは思いますが、ニュアンスとして組み込んでほしい。

委員

松戸らしさのあるプログラムを考えてほしいと思う。みどりの市民力を考えると、みどりに触れる学びの場が必要だと思う。人に伝わりやすい概要版も必要だが、実際に触れ合うことも意識を高めることに繋がると思う。

委員

プラットフォームをつくって広報していったり、シティプロモーションを展開したりする時に、目立つ売り物があった方がいい。樹林地や花壇の活動に関わる体験プログラムをとっかかりとして、例えばSDGsの考え方の学び場として展開したらどうかとの意見もサロン部会で出た。

会長

学びの場のプログラムを考えるときには、どうやって一般市民に伝えるのかを考える必要がある。専門的なものでは一般には受け入れてもらえないので、一緒に検討しなければならないが、まつど森ずかんが好評なのは伝わりやすく分かりやすいものだからであると思うので、これからのヒントになるのではないかな。

サロン部会としては試行してフレームやスキームをつくれるが、部会は実行する組織ではない。

委員

プラットフォームの考え方では、その組織はちゃんとした枠組みではなく、広い裾野をつくっていくことにあるが、そのきっかけとして実行する組織が必要だと思う。

里やま活動の若い世代ではクリエイターの集団をつくってみるのも面白いと話が出ている。このようなものは具体的なものなので、答申には入らないと考える。

委員

先ほど文章が分かりにくいと話があったが、市長へ提出するレポートのようなもので、一般にはそのように公開されるので固い文章になると思う。一般市民へ伝えることを考えるとシティプロモーションやプラットフォーム等の横文字は内容が一般的に伝わりにくいので、カタカナにならない表記の方がいいと思う。

委員

12期の委員へ引き継いでほしいものを伝える文章として、分かってもらえるものがある。初めて委員となる人にも分かってもらえるような文章にしてみたい。

会長

学識経験者や関係団体の代表は引き継ぎの委員も多いと思うが、市民委員は初めて委員となる方もいると思う。第12期の委員へ伝わるのが大事なので、注意して書くようにしましょう。

委員

学びという言葉が出てきたが、松戸市のみどりの根底は市民力であると思っているので、市民力の底上げにも繋がる学習の推進は上位に見出しがあっても良いようなものだと思う。

これから何が必要かを考えると、まったく新しい活動や既存活動をブラッシュアップしたものになると思う。今までと別のものでないものと新しい人にみどりのファンとなってもらえない。これからのポイントとしては若い層に受け入れられないと続かない。全国的にも止まってしまう活動は若い人が入ってこないものばかりである。

クリエイターについても重要で、先日農林水産省の会議で6次産業化の政策フレームが変わって農山漁村発イノベーション等整備事業になった。変更点は個別支援から地域が連携して農業を支援していくものとなっていて、若い層やクリエイターを取り込まないといけないとの議論もされていた。同じような議論が違う分野でもされていることを考えると、これからの共通の課題なのではないか。農林水産省は既存事業に加えて若い世代の大学生をターゲットにして事業に絡めようとしている。松戸のみどりでは学びを通して若い世代の獲得を目指すようなことが書いてあってもいいのではないかと。若い世代とクリエイティブな発想を持った人の獲得は大事である。

会長

みどりの活動のみどり以外の活動との繋がりが新しい価値をつくると思う。子育て世代やもっと

若い世代、クリエイティブな人たちと活動をしていくことが重要だと感じる。

委員

異分野間交流がとても大事だと感じていて、松戸オリジナルの創造や裾野を広げることを考えると、みどりと異分野は展開としては良いと思う。異分野の横の繋がりは行政のサポートも必要なので、行政の側でも考えて出来ることをやってもらいたい。

会長

答申に関しては修正したものを送らせていただきます。

連絡事項

事務局

第12期委員会の市民委員募集につきましては、広報まつど4月15日号で募集をいたしました。テーマは「私の好きな松戸のみどり」として1000文字程度のレポートをお願いしたところ、6名の応募をいただいております。選考につきましては、この後の11時30分からの選考会で決定します。次回の委員会は、6月23日(木)14:30を予定しております。その委員会の後半の時間を使い、市長への答申を行います。

柳井会長

以上で本日の委員会を終了する。